

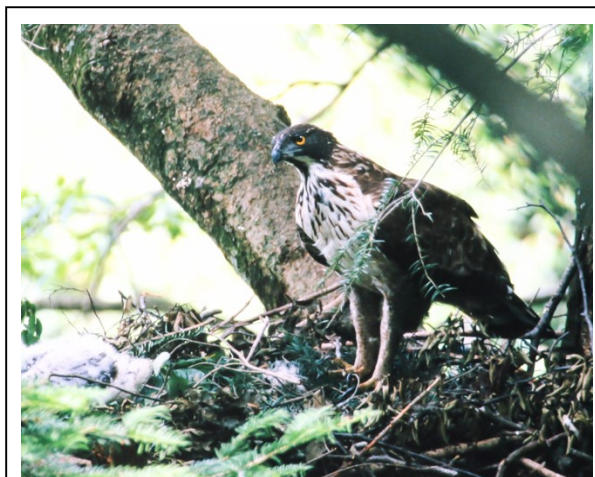
## クマタカ *Nisaetus nipalensis* Hodgson

### 【選定理由】

県内の山間部に周年生息し繁殖するが、生息地は限られており数も少ない。定住性が強く、営巣・採餌に広域かつ多様な環境が必要であることから、開発圧の影響を受けやすい。近年の研究では繁殖成功率の低下が指摘されており、絶滅の危機に瀕していると考えられる。

### 【形態】

全長は雄が 70～74.5cm、雌が 77～83cm、翼開長は 140～165cm。上面は全体的に灰褐色、下面は淡褐色で胸に褐色の縦斑、腹には不明瞭な横斑がある。頭上には短い冠羽があり、成鳥の顔は黒褐色で目の色は黄色。飛行時は、翼が幅広く後縁が膨らんで見える。尾は長めで、太くて明瞭な横帯が 4～5 本ある。幼鳥は、全体的に著しく白っぽく、尾の横帯は細くて数が多い。目の色は黒っぽく見える。



愛知県, 2000年6月15日, 杉山時雄 撮影

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

三河の山間部に周年生息して繁殖するが、ごく希に平野部近くに飛来することもある。

#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州の山地に生息し、佐渡、隠岐、対馬でも記録がある。

#### 【世界の分布】

インド南西部、インド東部、スリランカ、ネパールから中国南部、ミャンマー北部、マレー半島北部、タイ、インドシナにいたる地域、台湾、日本に分布する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

県内では標高およそ 400m 程度以上の山地で繁殖し、急峻な谷を中心に生活する。繁殖には営巣と育雛に必要な大径木を含む営巣林が必要であり、行動圏には餌となるヤマドリやノウサギなどが生息する多様な環境が必要である。大型のタカであるが、通常は山の尾根筋や斜面から離れた場所を飛行することが少なく、開けた上空でディスプレイを行う繁殖前期以外は目にする機会が少ない。幼鳥は巣立ち後も長期間にわたり営巣林の周辺に留まることが多く、親鳥も自分のテリトリーから積極的にこの若鳥を追い出す行動はとらないようである。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

県内では、三河地区の山地で繁殖期を含む生息が確認されている。繁殖は毎年あるいは隔年で、ヒナの数は 1 羽のみであるため、他の種に比べ個体数の増加率はかなり低いものといえる。

### 【保全上の留意点】

定住性が強く、開発の影響を受けやすい種である。急峻な谷など本種が生息している可能性のある地域で開発行為を計画する場合には、その生息状況を把握する必要がある。生息地においては十分調査を行って、営巣林や巣立ち後の幼鳥の行動範囲など中心的なエリアを特定し、適切な保全と管理を行う必要がある。

### 【特記事項】

定住性が強く繁殖環境以外の場所で観察される例は少ない種であるが、非繁殖期には繁殖環境以外の山地で観察されることがあり、ごく希に丘陵地や平地でも観察されることがある。

本種は、種の保存法で国内希少野生動植物種に指定されている。

### 【関連文献】

五百澤日丸・山形則男・吉野俊幸, 2014. 新訂 日本の鳥 550 山野の鳥, pp.86-87. 文一総合出版, 東京.

(高橋伸夫)